



建物外観（撮影：川澄・小林研二写真事務所）

建築概要

建設地：東京都千代田区九段南1丁目6番5号
 建築主：合同会社ノーヴェグランデ
 設計：鹿島・梓 設計工事監理業務共同企業体
 施工：鹿島建設株式会社
 建築面積：5,123.02m²
 延床面積：68,036.35m²
 階数：地上17階、地下3階（保存棟）地上5階、地下1階
 高さ：74.966m（保存棟）28.93m
 構造種別：SRC造（免震構造）
 登録有形文化財（保存棟）

選評

内堀通りにL型に既存棟を残して、開放的な武道館や靖国神社を望める牛ヶ淵沿に玄関ホール前の九段広場から遊歩道をつなげ、歴史的な玄関ホールを高層増築棟のプラザ、オフィスエントランスへと空間を連続させ巧みに演出している。また、保存部分の最上階には、屋上庭園を設け、帝冠様式の屋根瓦の再生を気持ちの良いテラスからも望め、開放的な都心の景観を楽しめる施設として再生された。

既存棟の免震レトロフィットは、外壁の保存を意識されて、基礎免震を採用して、EXP.J部のレベルを巧みに変えて目立たないように工夫し、外観の保存に生かされている。また、既存躯体の中性化対策、外装タイルに対する剥離防止、東日本地震の教訓を生かし2次部材の耐震化、省エネ、遮音、機密性の向上と『改修がわからない』ことを徹底され、BCP対応として、帰宅困難者（3日間）の受け入れ可能な計画とする等、様々な工夫を行い、免震既存棟と制振増築棟をEXP.Jにて繋ぎ、現行法規に準拠したうえで大臣認定を取得、耐震性能を大きく向上させ再生した。

既存改修は、解体時におこる様々な困難を乗り越え、歴史上重要な舞台となった施設が登録有形文化財として登録を受け再生された施設づくりに関わられた方々全員に賞賛を贈りたい。
 （小林 仁）

建築主：合同会社ノーヴェグランデ
 設計者：鹿島・梓 設計工事監理業務共同企業体
 施工者：鹿島建設株式会社

改修に至った経緯及び企画設計等

旧九段会館の北側（昭和館側）と東側（内堀通り側）をL字型に保存し、保存範囲（保存棟）の大部分の外装と宴会場など保存室の歴史的価値を損なわずに残す必要があった。また、躯体は今後の長期使用に耐えうる耐久性と耐震性が求められた。

天井等の二次部材についても天井崩落事故の教訓から高い安全性が求められ、災害時の帰宅困難者の受け入れも含めてBCP対応が必要とされた。

これらの要求性能を満たすべく免震構造を採用した。解体部分は超高層の新築棟がエキスパンションを介して建てられた。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

既存ドライエリアを免震クリアランスとして利用する基礎免震を採用した。外周部は地下1階外壁開口部下での免震とすることで外壁開口部の保存を可能とした。室内側の一部を柱頭免震とし地下1階の有効活用を図った。

1階正面玄関庇部分は、デザイン切り替え部の柱脚台座天端の目地部を利用して滑り支承を納め外観に配慮した。

今後の長期使用に当たり既存躯体を調査して、一部でコンクリートの中性化が進んでいること、地下1階でコンクリート強度の低い部分があることが判明した。中性化対策として再アルカリ化工法、低強度コンクリート対策として一部の柱で既存コンクリートを撤去して打ち直しを行った。

